

評価の活用

評価結果の活用例

中間評価結果を受けて - 平成18年度 CREST型 -

研究費の増額 12件

研究計画、研究体制の見直し等(研究内容の選択・集中、共同研究) 16件

研究費の増額および研究計画、研究体制の見直し等 3件
(研究内容の選択・集中、共同研究)

研究費の減額 2件

中間評価対象課題：42課題

評価人材の養成・確保

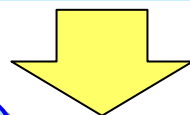
プログラムオフィサー資格認定制度

我が国のPO制度の抱える課題

課題1. POの絶対数の不足

課題2. アカデミアより各領域ピンポイントでPO委嘱必要

課題3. ファンディング業務習得はすぐには無理



JSTの対策 – 2人3脚方式

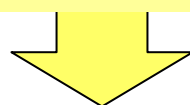
JSTでは研究歴を有する者をここ数年以上中途積極採用(研究費部門担当の過半数へ)。

これらスタッフの能力を拡大、アカデミアPOと組合せ

プロの研究開発評価人材(プラクティショナーおよびアナリスト)として育成



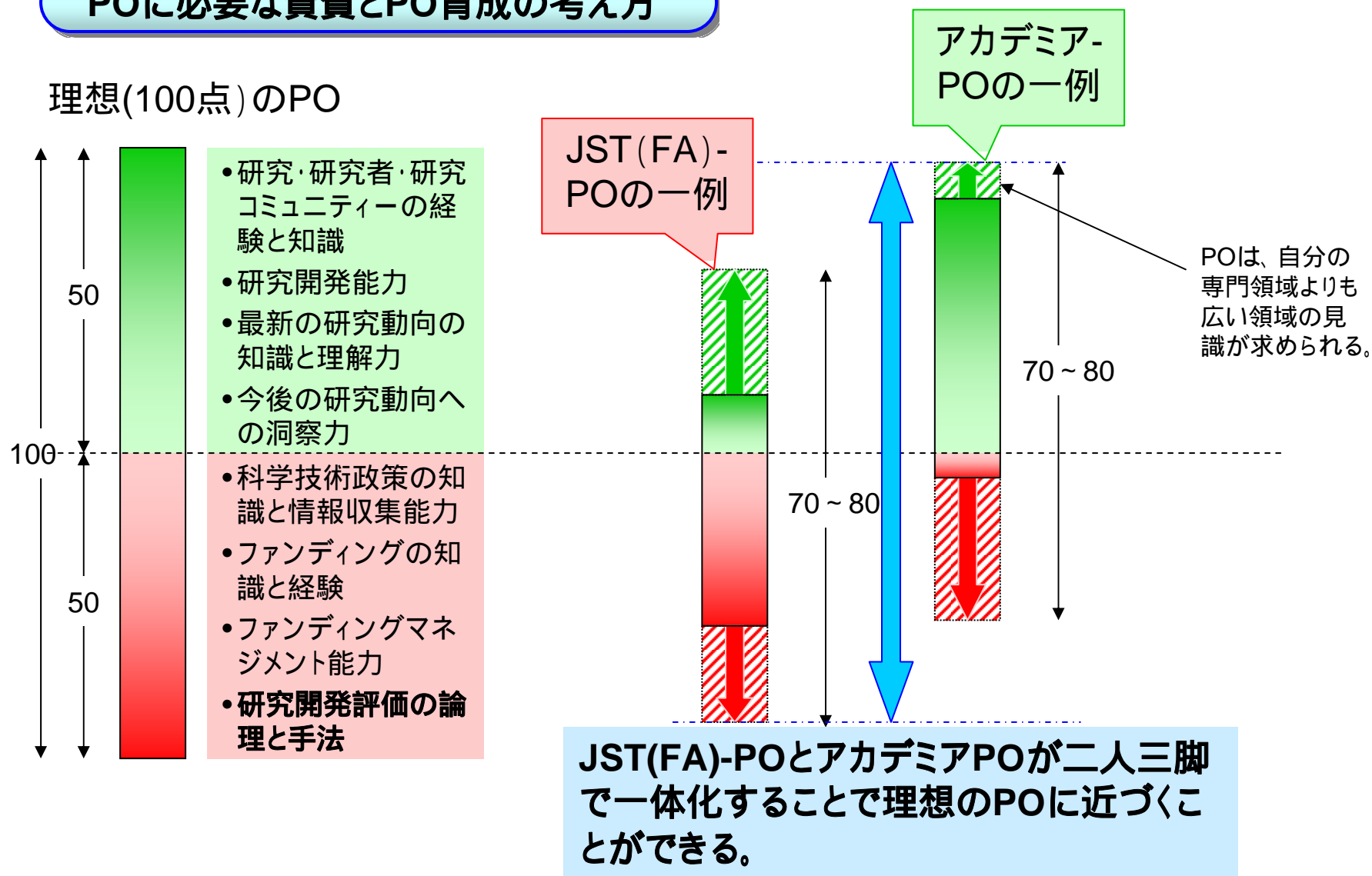
PO資格認定制度



「Funding AgencyのPO」と、政策課題対応型研究開発の各専門性と合致する非常勤の「アカデミアPO」が二人三脚 理想のPO制度へ

プログラムオフィサー資格認定制度

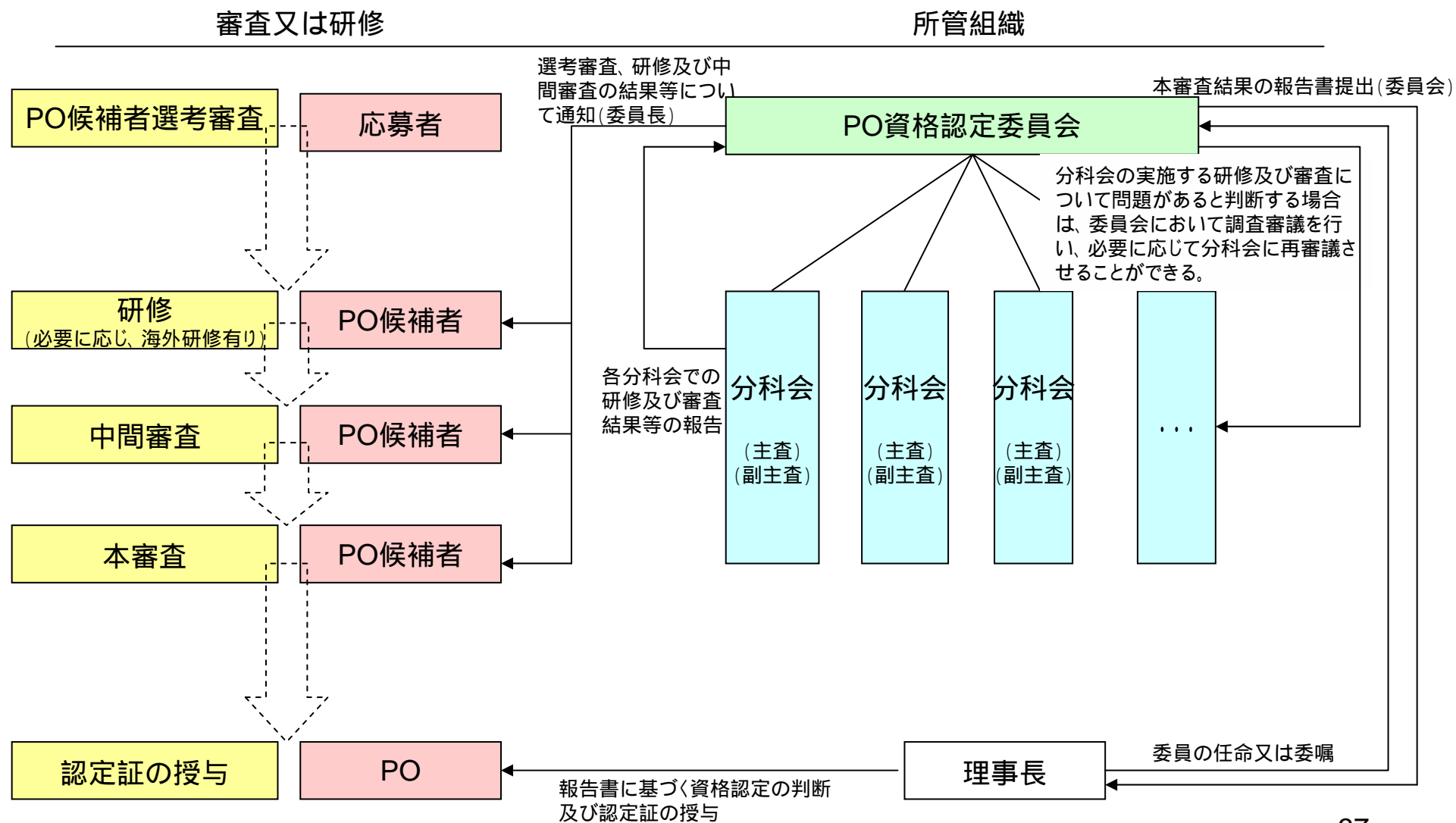
POに必要な資質とPO育成の考え方



実線部分は現在の能力。斜線部分はPOとなるために新たに習得すべき能力。
合計して70～80以上の能力が望ましい。

プログラムオフィサー資格認定制度

PO資格認定制度の流れ図



プログラムオフィサー資格認定制度

- PO資格認定委員会

今成 真	三菱化学株式会社 顧問
井村 裕夫	財団法人 先端医療振興財団 理事長
岸 輝雄	独立行政法人 物質・材料研究機構 理事長
北澤 宏一	独立行政法人 科学技術振興機構 理事
国武 豊喜	北九州市立大学 副学長
小間 篤	独立行政法人 科学技術振興機構 研究主監
高橋 宏	独立行政法人 科学技術振興機構 主監
野依 良治	独立行政法人 理化学研究所 理事長
藤原 正博	独立行政法人 科学技術振興機構 理事

プログラムオフィサーセミナー

プログラムオフィサー(PO)セミナー開催経緯と今後の予定

➤ 科学技術振興調整費(JST受託)によるPO国内セミナー

1. 2004年9月21日----開催場所: 日本科学未来館: NSFからPO3人講演
2. 2005年1月20日----開催場所: JSTホール: 英国、NIH、ドイツのPO
3. 2005年3月1日----開催場所: 日本科学未来館: カナダ、オーストラリアのPO

➤ JSTによるPOセミナー

1. 2006年3月14日 -----開催場所: 東京會館(参加者140名)
2. 2006年10月31日-----開催場所: 東京ガーデンパレス(参加者150名)
(テーマ: 我が国に最適なPO制度を求めて)
3. 2007年3月1日-----開催場所: 都市センターホテル(参加者150名)
(テーマ: 研究開発評価とPOの役割)
4. 2007年6月27日-----開催場所: 東京大学鉄門講堂
(競争的資金の会計的マネジメントとPOの役割)

予定内容: NSFにおける競争的資金マネジメントの会計的側面

: 米国の大学における競争的資金マネジメント

: 研究開発予算の会計的な管理について

: 競争的資金の適正な管理と制度改善へ向けたMEXTの取組について

: JSTのプログラム調整室新設と役割 など